

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

測定年度	令和6年度	学校コード	F142310111201	設置等相場名	先端工学部（グリーン・デジタル学科、グリーン船舶システム学科）
大学名	長崎総合科学大学	設置区分	私立	事業計画名	先端グリーン・デジタル技術を駆使し次世代をつくるスーパーエンジニアの育成
学校種	大学	都道府県	長崎		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和6年度	1-① 令和6年5月「新学部設置準備室」を設置 1-② 令和6年6月 調査・検討・準備開始 1-③ 令和6年7月 「グリーン・デジタル産業分野教育協議会」の開設・意見交換会開催し協議開始 1-④ 令和6年8月 他大学、海外連携大学・機関との協議開始（ダブルディグリー、クロスアポイントメント含） 1-⑤ 令和6年8月 新校舎設計開始	1-① 令和6年5月「新学部設置準備室」を設置 1-② 令和6年6月 調査・検討・準備開始 1-③ 令和6年7月～11月「グリーン・デジタル産業分野教育協議会」参加企業への依頼開始 1-④ 令和6年12月 第1回「グリーン・デジタル産業分野教育協議会」開催（26社） 1-⑤ 令和7年2月 「グリーン・デジタル産業分野教育協議会」の参画企業との企業研究セミナー開催 1-⑥ 令和7年3月 高校生参加の公開講演会開催 1-⑦ 令和6年8月～12月 他大学、海外連携大学・機関との協議開始（ダブルディグリー、クロスアポイントメント含） 1-⑧ 令和6年12月 中国の海外連携大学として2大学とMOU締結（ダブルディグリー） 1-⑨ 令和6年8月～7年3月 新校舎設計開始	令和6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
令和7年度	1-⑥ 令和7年4月 新校基本・実施設計開始 1-⑦ 令和7年4月 新学部 認可申請書作成開始 1-⑧ 令和7年6月 新学部 認可申請事前相談 1-⑨ 令和7年10月 新学部 認可申請（R8.4.10承認） 2-① 令和7年10月 新校建設費工（R8.4.10承認） 1-⑩ 令和8年3月 新学部 認可補正申請（R8.4.10承認） 1-⑪ 令和8年3月 総収容定員増の認可申請（R8.4.10承認）	1-⑥ 令和7年4月 新校基本・実施設計開始 1-⑦ 令和7年4月 新学部 認可申請書作成開始 1-⑧ 令和7年6月 新学部 認可申請事前相談 1-⑪ 令和8年3月 総収容定員増の認可申請	令和7年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
令和8年度	1-⑫ 令和8年4月 新学部 設置届出（R8.4.10承認） 1-⑬ 令和8年6月 新学部 募集開始（R8.4.10承認） 1-⑭ 令和8年8月 新学部 募集開始（R8.4.10承認） 2-② 令和8年10月 新校建設費工（R8.4.10承認） 3-② 令和9年2月 新校竣工・引渡し（R8.4.10承認） 2R-① 令和10年2月 新校竣工・引渡し（R8.4.10承認）		令和8年度自己評価	リストから選択してください。
令和9年度	3-① 令和9年4月 新学部 一階生入居開始 3-② 令和9年4月～ 自主化への取り組み（募集戦略の強化、自治体・企業・海外連携科目の新設・実施、講演会）		令和9年度自己評価	リストから選択してください。
令和10年度			令和10年度自己評価	リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価	リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
令和15年度			令和15年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和6年4月 工学部工学科及び総合情報学部総合情報学科の定員減の届出（R8.4.10承認） 令和6年3月 工学部グリーン・デジタル理工学部先端グリーン・デジタル先端工学科（後修）一般届出申請予定（R8.4.10承認） 令和8年3月 総収容定員増の認可申請（R8.4.10承認） 令和8年4月 先端工学部（グリーン・デジタル学科、グリーン船舶学科） 学部の設置届出予定（R8.4.10承認）	令和6年4月 工学部工学科及び総合情報学部総合情報学科の定員減の届出 令和8年3月 総収容定員増の認可申請 令和8年4月 先端工学部（グリーン・デジタル学科、グリーン船舶システム学科） 学部の設置届出		
定員減又は学部等の廃止	令和6年4月 工学部工学科20人減員（入学定員100人、工学分野）、総合情報学部総合情報学科10人減員（入学定員75人、工学分野）七分中五分届出（R8.4.10承認） 令和8年3月 総収容定員変更の認可申請（既設学部（工学部工学科）の入学定員の減：100人⇒55人、工学関係）（R8.4.10承認） 令和8年4月 既設学部（工学部工学科）の入学定員45人減員予定：100人⇒55人、工学関係）（R8.4.10承認）	令和6年4月 工学部工学科50人減員（入学定員100人、工学分野）、総合情報学部総合情報学科10人減員（入学定員75人、工学分野）七分中五分届出 令和8年3月 総収容定員変更の認可申請（既設学部（工学部工学科）の入学定員の減：100人⇒55人、工学関係）		

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	長崎総合科学大学
-------------	-------	-----	----------

2.申請資格の確認

- i) 学生募集停止中の大学
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、ブルダウンで選択してください。（ブルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	i)	ii)	iii)	iv)	v)
すべての項目に該当していない					

3.申請要件の取組状況

- ① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。□
- ② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。
- ③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。
- ④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。
- ⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。
- ⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。
- ⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。
- ⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。
- ⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。
- ⑨ 事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）
- ⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80％を満たす計画であること。
- ⑪ フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5％を上乗せした水準以上とする計画であること。
- ⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。
- ⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。
- ⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、 令和7年度 の取組の状況についてブルダウンで選択してください。（ブルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をブルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック

b.関連分野に強みを持つ地域他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	長崎総合科学大学
-------------	-------	-----	----------

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>a.企業連携科目として県内の企業と連携し、グリーン・デジタル関連の最前線で実務に携わる方の経験や課題を、課題解決型学習とアダプティブラーニングを駆使して教授いただく。卒業研究に企業との共同研究を取り入れ、現実的な課題の解決に向けた研究や、学会発表や企業への成果報告などが体験でる形にする。自治体連携科目として、周辺自治体、特に長崎市・大村市・諫早市等において、自治体が抱える課題の解決に向けた研究を学部卒業研究などでとりくむ事ができるよう、市との協力関係を結ぶ。サステナブル・スマート・キャンパスを自治体との協力の基で実現し、教育に活用する。</p> <p>b.他大学との連携した科目として、長崎大学、活水女子大学、長崎外国語大学と連携科目を設ける。例えばDX・GX技術の最前線を学ぶフォーラム関連科目を共同開催したり、クロスアポイントメントによる文理融合型コースの共同運用を実施する。これらを可能とする制度の制定に向けて、フェーズ1で他大学と協議を行う。</p> <p>c.海外大学と連携して、海外の最新DX・GX施策を学ぶ短期留学プログラムを設ける。DX分野ではトリノ工科大学、カリフォルニア工科大学、大学ではないがCERN(欧州原子核研究機構)、GXではオールボー大学、ETHチューリッヒなどと既に共同研究をしている教員を通し、卒業研究生を国際共同研究に参加させ、海外研究者とともに学ぶ試みを行う。</p>	<p>a-① 令和7年7月、新設学部の設置に向けて設立した「グリーン・デジタル産業分野教育協議会」の第2回目を開催し、参加企業30社中22社の参加を得て、新学部の方りとGDX人材の育成方針等について意見交換を実施した。 (https://nias.ac.jp/news/archives/3189) また、本協議会参加企業より講師を招き、キャリア科目を冠講座として15回実施した。 (https://www.nias.ac.jp/news/archives/3186)</p> <p>a-② 造船関連のGDX人材育成を推進するため、令和8年1月にグリーン船舶システム産業分野教育協議会を設立した。</p> <p>a-③ 令和7年7月、令和6年度に締結したイサハヤ電子（株）との包括連携協定に基づき、電気電子工学コースの学生が同社を訪問し、実践的な教育カリキュラムを実施した。 (https://www.nias.ac.jp/news/archives/3180)</p> <p>a-④ 令和7年8月、（株）シーエーシーと産学連携の取組に関する協力関係を構築し、互いの資源・ノウハウの有効活用を図ることを目的に包括連携協定を締結した。 (https://www.nias.ac.jp/news/archives/3183)</p> <p>a-⑤ 令和7年6月、長崎県五島手延うどん振興協議会と新上五島町の主力産業である五島うどん振興等の地域社会活動への貢献と人材育成に寄与することを目的として包括連携協定を締結した。 (https://nias.ac.jp/news/archives/3167)</p> <p>a-⑥ 令和7年11月、エヌビディア合同会社とソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)から第一線で活躍する講師をお迎えし、「長崎総合科学大学公開講演会 22世紀の科学技術 カガヤクAIテクノロジー ～NVIDIAとソニーの挑戦～」を開催。附属高校及び本学の授業の一環として開催し、多くの高校生と学生が参加した（参加者約550名）。 (https://www.nias.ac.jp/news/archives/3219)</p> <p>a-⑦ 令和8年2月、株式会社マイナビ及びエヌビディア合同会社から講師をお迎えするとともに県内外の企業41社の企業担当者をお招きし、就職活動を控えた学部3年生及び修士1年生を対象に「2025年度長崎総合科学大学企業研究セミナー」を開催した。 (https://www.nias.ac.jp/news/archives/3251)</p> <p>a-⑧ 令和8年3月に開催したオープンキャンパスにて高校生が地元企業とチームを組み、企業の広報戦略を企画・実践する産学官連携プロジェクト「広報型PBLプログラム」を開始した。 (https://www.nias.ac.jp/news/archives/3261)</p> <p>a-⑨ 島原市と連携協定に基づき島原市内拠点を活用したサテライトキャンパス設置について合意した。</p> <p>b-① 共通科目系列の形成科目について、他大学とのクロスアポイントメントによる担当者の配置について検討を行った。</p> <p>c-① イタリアのトリノ工科大学との連携協定締結に向けて準備を進めた。トリノ工科大学はEUエリアの工科大学（9大学）との連携を持つため、それを利用した短期留学等も可能となる。</p> <p>c-② 令和7年10月、オーストリアのウィーンで開催された国際会議ICRERA2025（本学協賛）にて、トリノ工科大学の他、ウィーン工科大学、ウィーン応用科学大学を訪問し、今後の連携のための意見交換を行った。この国際会議には大学院生も参加させ、海外の大学らとの交流を行った。</p>	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック

a.入学者選抜における科目の見直し
- チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>a.文系生徒も志願しやすくなるよう、フレキシブルに受験科目を選択できるようにするなど受験科目を見直し、多様な入学者の確保を図る。</p> <p>b.総合型選抜において、各学部それぞれに数名ずつの女性枠を設ける。さらに、周辺文系大学と協力して、女子学生が志望しやすいような文理融合型コース・プログラムを創設し、女性志願者数の確保を図る。</p> <p>c.小中学生を対象に「ものづくり体験」の開催や「ながさき土曜学習応援団」といった体験学習への参加を通して地域の小中学校との連携を深める。附属高校については「大学講義の先取り履修」を実施し高大連携を強化する。また、教員による高校への出前講義や実習の無償提供や、県内SSH指定校のサポートを強化していく。</p> <p>d.クォーター制により勉学のための派遣期間が短くなる長所を使い、社会人に対してのリスキリング教育などの連携を容易にする。さらに、周辺大学との単位互換制度の枠組みを用いて、オンラインで受講可能な無料科目を提供する。</p> <p>e.別科日本語研修課程の受け入れ体制を強化し、JICAと協力してASEANからの留学生を広く受け入れる。また、ダブルディグリー導入により、留学生増を図る。提携校としてはASEANの大学とフェーズ1で協議を開始する。</p>	<p>a-① 一般選抜入試で工学部において必須としている教科「数学」の出題範囲を「数Ⅰ＋数A」とすることによって総合情報学部と統一することについて協議を進め、令和9年度入試からの実施とすることについて決定した。これによって、文系受験者でもより受験しやすい内容となり、学部間で内容を統一することによって、1つの志願で志望学部を跨いだ受験が可能となる。</p> <p>b-① オープンキャンパス等で総合型選抜（女性枠）の意義を明確に示すことにより女性枠を活用した受験者が増え、14名が入学した。</p> <p>b-② 令和7年9月、女性枠により入学した女子学生に限定しない「女性技術者育成プログラム」の一環として、女性特有のテーマを設定した「女子学生のためのキャリアデザインセミナー」を実施した。</p> <p>c-① 令和7年7月、「長崎総合科学大学ものづくり体験2025」を開催。約500名の小中学生が参加し、理工系分野の楽しさを体験した。 (https://www.nias.ac.jp/news/archives/3185)</p> <p>c-② 日本商工会議所（日商）が認定する「日商アソシエイトマスター」の資格取得に対応したカリキュラムを全国の大学で初めて導入し、令和7年度は本学学生及び本学附属高校生20名が受講した。 (https://nias.ac.jp/news/archives/3203)</p> <p>c-③ 高大連携においては、本学附属高校生に対してAI・データサイエンスを学ぶ「AIリテラシー」等の4科目を先取り履修として提供し、延べ16名が受講した。</p> <p>c-④ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）や高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）に取り組む高校を中心に県内外14校（愛知県立三谷水産高等学校、佐世保南高等学校、長崎工業高等学校、佐世保工業高等学校、鹿町工業高等学校、島原工業高等学校、大村工業高等学校、上五島高等学校、長崎南高等学校、長崎南山高等学校、海星中学校・高等学校、大村高等学校、長崎市立長崎商業高等学校、敬徳高等学校）と連携協定を締結した。</p> <p>c-⑤ 本学主催のNiasセミナー（出前講義・体験学習）を令和7年度は23件実施した。 (https://www.nias.ac.jp/files/uploads/niasseminar.pdf)</p> <p>d-① 令和6年度の取り組みを継続して実施した。船舶分野以外の分野においても、船舶分野と同じように、特にAⅠの活用分野について検討を行った。</p> <p>e-① 別科日本語研修課程の受け入れ体制を強化し、令和7年度には中国、バングラデシュ、インド、マレーシア、ケニア、ベトナムから計30名の留学生を受け入れた。別科修了生27名のうち、本学学部へ13名、大学院へ2名、研究生として3名が進学した。</p> <p>e-② 姉妹校である中国四川省の西華大学から3名の交換留学生を受け入れた。令和8年10月からの本学大学院への進学を希望している。</p> <p>e-③ 中国海洋大学および中国石油大学との連携協定締結に向けて検討を行った。令和8年度に大学間協定を締結し、令和9年度からのダブルディグリーによる学生受け入れを検討している。</p>	

大学名	長崎総合科学大学
-----	----------

1.本事業対象となる学部等の状況

[illegible]

1.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

大学名	長崎総合科学大学
-----	----------

(2)	改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
	学部学科名	先端工学部グリーン船舶システム学科（仮称）（工学関係）

[illegible]

大学名	長崎総合科学大学
-----	----------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	長崎総合科学大学
-----	----------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	235	175	175																
		入学者数	人	187	171	228																
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員(A)	人	235	175	175																
		入学者数(B)	人	187	171	228																
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.80	0.98	1.30																
	収容定員等	収容定員(C)	人	940	880	820																
		編入学定員	人	-	-	-																
		在籍者数(D)	人	745	732	774																
		編入学者数	人	-	-	-																
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.79	0.83	0.94																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			申請－5年	申請－4年	申請－3年	申請－2年	申請－1年	申請	選定												
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	87,957	79,566	92,200	173,552	149,911	136,130	202,573	188,444											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間に於ける各年度の外部資金 獲得額のうち最大額及び最小額を除いた 残り3年分の平均）(E)	千円	110,023
本事業による助成金の額(F)	千円	1,038,052
フェーズ3の助成期間終了時までに達成す る額(E+F×2.5%)	千円	135,974

特記事項

大学名	長崎総合科学大学
-----	----------

3.大学（学士課程）の状況

<合計>

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学状況	入学者数等	入学定員(A)	人	235	175	175																
		入学志願者数(B)	人	358	291	411																
		受験者数	人	358	291	411																
		合格者数	人	328	281	349																
		入学者数	人	187	171	228																
		志願倍率(B/A)	倍	1.52	1.66	2.35																

特記事項

--

